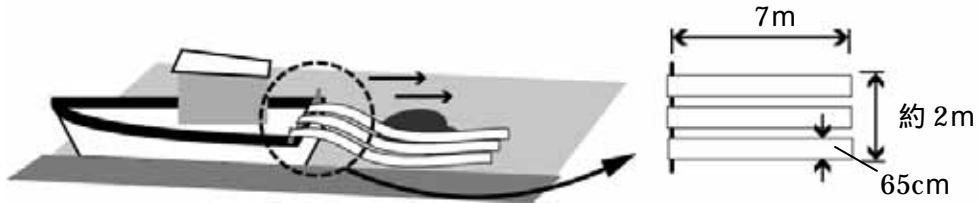
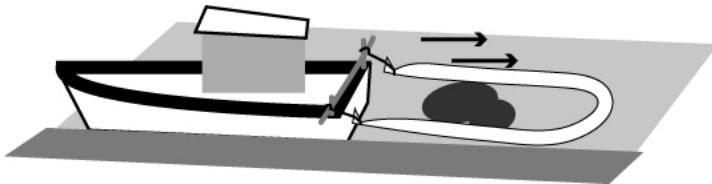


(4) 港内での油流出事故時の対応法
 岸壁、棧橋に繋留中の船舶からの油流出
油の流出が継続している場合
 流向が一定の場合
 流れが1~2ノット程度の場合



長尺型油吸着マットを船首または船尾から流れる方向に吹き流し状に取り付けます。

流れが0.5ノット程度の場合

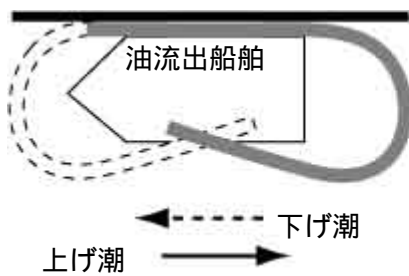


下流側に竹棒等を張り出し両端に油吸着マット等を固縛します。

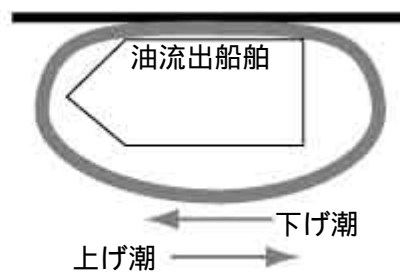
流向が変化する場合

潮替わりにより変化する油の流出方向に対応するため、油の流出している船の全周または潮下側を長尺型油吸着マットで包囲します。

護岸・岸壁または棧橋・ドルフィン



護岸・岸壁または棧橋・ドルフィン

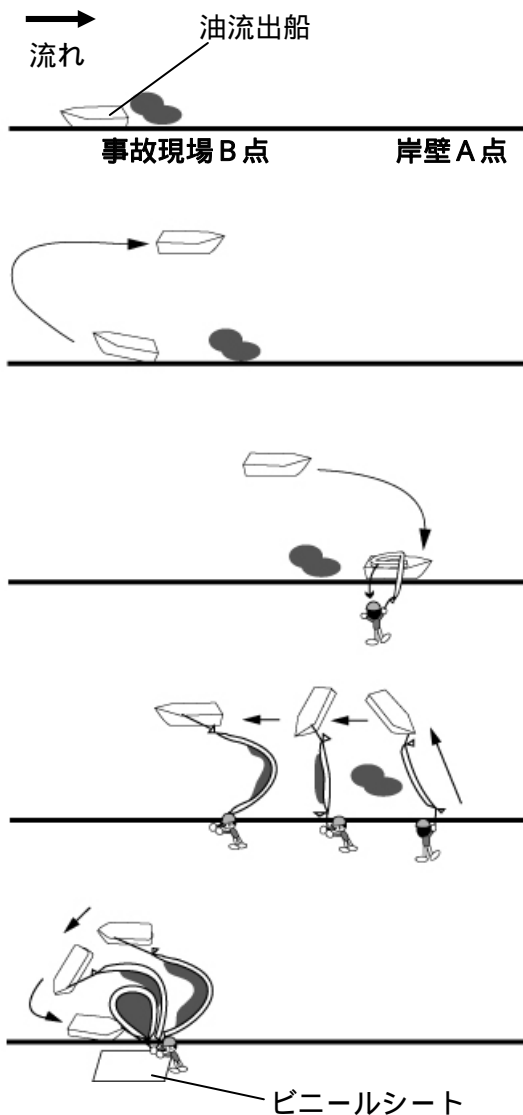


流速が速かったり流出油量が多い場合は、油の吸着状況に応じて張り替えや多重展張する必要があります。

油の流出が止まっている場合

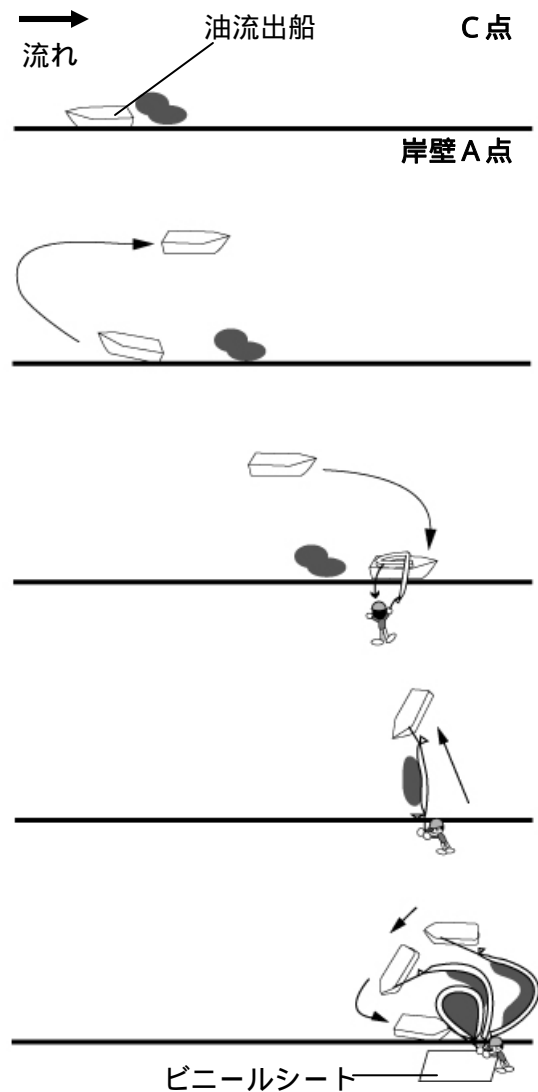
流れが0.5ノット程度の場合

油流出船は油が流れる先の岸壁（A点）に行き、長尺型油吸着マットを海面に投入し、陸上と毎分15m（0.5ノット）程度の速度でU字型に油を包囲しながら、B点へ向い、包囲縮小してから陸上へ回収します。



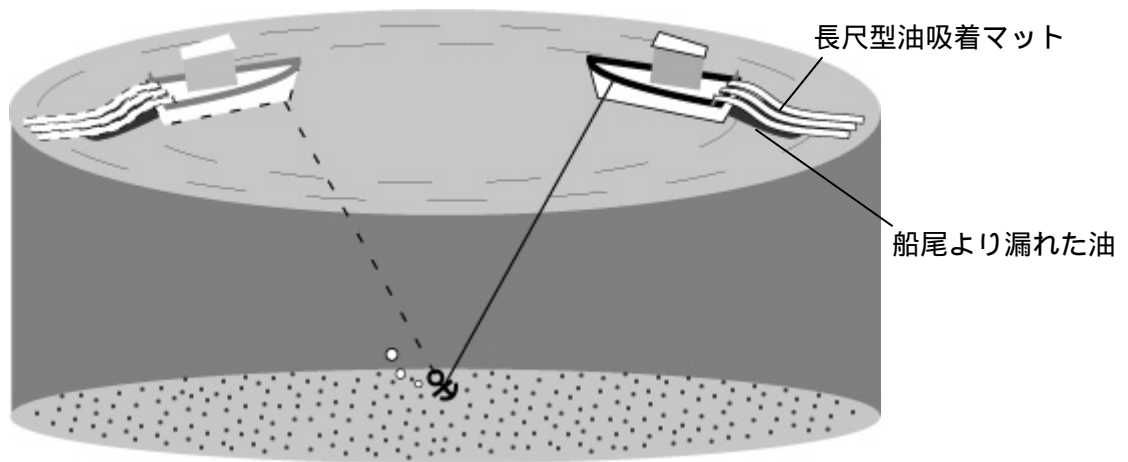
流れが1ノット以上の場合

曳航速力を含む対水速力が1ノット以上の場合、U字型中央部が水圧抵抗により水面下に沈み込み、浮流油を逃がしてしまうので、油流出船はC点で、陸上はA点でマットの端ロープを保持し、待ち受け回収します。

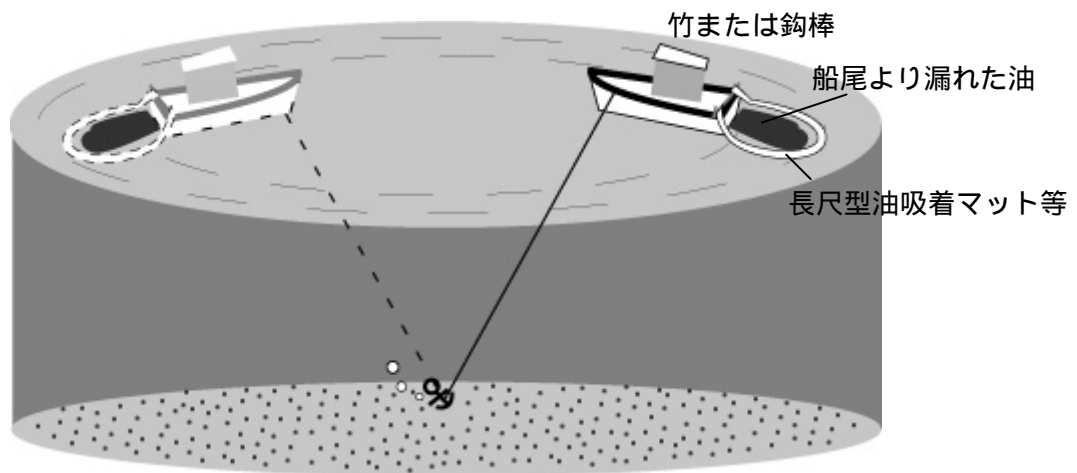


油回収ネットを使えば、流速2ノット程度でも油を回収することができます。

錨泊等の場合



長尺型油吸着マットを、吹き流し状に流します。



長尺型油吸着マット等の両端に6mmロープを固縛し、U字型に包囲します。